Pharmacist Road

創刊号
発行日　2008.01.01
発行元　県連薬学生委員会
荒井・藤原・高橋・稲葉・大賀
石山・安田・小椋

ついに薬学生向けニュース　創刊 !!

明けましておめでとうございます! 薬学生のみなさんは、いかがお過ごしですか?卒業試験、国家試験、後期試験に向けて勉強しているとこでしょうか?
この度、薬学生のみなさんにつばさ薬局や病院薬局の情報をお伝えするべく、薬学生向けニュース『Pharmacist Road』をめでたく創刊することとなりました！
ニュースの発行はナント目標3ヶ月に一度のペース！(いや4ヶ月ごと・・・少なくとも6ヶ月・・・なんとか1年に1回は発行を考えたいなぁ・・・)
とにかく長続きするように頑張って楽しく、タメになる紙面作りをしていきたいと思いますので、これから先、ヨロシクお願します。
みなさんの近況、今ハマッテイルことなども紙面に盛り込んで参りたいと思っていますので、原稿等依頼の際は、ぜひご協力をお願いしま〜す！　　○。(^0^) √~

奨学生に新たな仲間が誕生!

今年の10月より、新たに奨学生の仲間ができました!東北薬科大学3年生の遠藤智美さんです。遠藤さんは『夏の集い』にも参加しているので、すでに顔なじみになっている方も多いかと思います。これから先、遠藤さんを奨学生の仲間としてよろしくお願いします!m(_ _)m

遠藤さんから自己紹介が届きましたので、ご紹介します！

こんにちは。東北薬科大3年遠藤智美と申します。夏の集いに初参加・多賀城店で実習をさせていただき、この度つばさ薬局の奨学生となりました。よろしくお願いします。今回自己紹介ということで、出身や趣味など紹介します。

出身は福島県南相馬市で、仙台駅から電車で南に1時間半ほどのところにある海と山に挟まれた町です。名物は「相馬野間追」という馬のお祭りがあり、夏の風物詩となっています。そんな町で18年過ごし、現在は学校の近くで一人暮らしになりました。

今は友達と買い物やカラオケ、ごはん・ケーキを食べに行くことが大好きです。お酒はかなり弱い方ですが、居酒屋のごはんが特に好きです。料理をすることも好きで、テレビで紹介される料理などすぐ試したくなります。食べることが好きですが、バナナとマヨネーズが食べられません。よく珍しがられます。最近はピアノを弾くことが好きでよく弾いています。一年しか習っていなかったのでまた始めたいと思っているところです。

このような私ですが、みなさんといっしょに働ける日をとても楽しみにしています。どうぞよろしくお願いします。

遠藤　智美

後輩へのメッセージ

薬剤師として今思うこと

私はつばさ薬局に勤務して半年経ち、調剤や監査、渡薬と全般に業務をさせていただきました。始めの頃は、なかなか流れが分らず苦労しましたが、今は実際に患者様と接する機会も増え、毎日楽しく働いています。学生の頃に学んだ知識がもちろん基本になりますが、やはりそれだけでは足りず患者様から学ぶこともたくさんあります。薬がうまく効いているかにしても、薬効だけの問題だけではなく、患者様の生活背景も考えなくてはなりません。薬が合わないのであれば、照会をして処方を変えてもらうだけの問題ですが、飲んでないのに症状が良くならないと言う方や、血糖の薬をせっかく飲んでいるのに食事が乱れていたりと、なかなか生活習慣や服用の意識を変えてもらうのは大変難しいことです。そういった方へ指導のやり方を学んだりすることは、学生生活の中ではあまり経験できないことと思いますし、臨床の場に入ってからの楽しみ・やりがいの一つだと思います。

また、実習などを通じて知っている方もいるとは思いますが、つばさ薬局が他の薬局と違うところは、社会保障や平和に対する取り組みが盛んなところです。毎年、原水爆禁止世界大会をはじめとして様々な取り組みに参加したり、朝会で憲法の学習をしたりと薬以外にも多くのことを学びます。一見、関係ないようなことと感じるかも知れませんが、そうではありません。みんなが平等に医療を受けるためには国が保障する基盤がしっかりしていなければ成り立つことではありません。実際、利用されている患者様の中にも医療費が払えず受診しなくなる方もいます。

これからますます負担が増え、そうした患者様が数多く出てくると思いますし、このような社会に対し薬剤師として、患者様に何ができるかを求められてくる時代に私たちは今あるのだと思います。問題を解決する為には難しいことがあるのも事実ですが、その分やりがいのある仕事だと思います。臨床的なところは、現場で働いてみないと分りにくいかとは思いますが、少しでもいいので、患者負担が多くなっている今の厳しい医療情勢のことを頭に浮かべてもらえたらと思います。国家試験に向けてがんばって下さい。

つばさ薬局　多賀城店　勤務
高橋　雅人　薬剤師

坂病院友の会『健康まつり』開催

10月14日(日)秋晴れのもと、第 30 回坂病院友の会健康まつりが開催されました。今回のテーマは「地域の力でつくる健康と医療」です。地域医療の発展と相次ぐ医療改悪に立ち向かい、生活と健康を守る取り組みの大切さが伝わった元気のでるまつりとなりました。健康まつりは友の会会員と職員が協力しあって、毎年多彩な催し物が企画されます。つばさ薬局では、昨年に引き続き「無添加のだしパック」の宣伝販売とつばさくらぶの協力を得てソフトクリームの販売を行いました。ソフトクリーム販売にいたっては、途中で品切れになるなどの大反響でした。また、薬害問題を地域の方々に広く知ってもらうための企画として、20数枚のポスターセッションを展示しました。政府厚労省は、和解に向けた対策をと前向きな動きをみせていますが、被害者の健康と生活が完全に保障されるかは未だ不透明です。粘り強いたたかいが重要となっています。共同組織強化月間が終盤を向かえています。今回の健康まつりで養ったパワーを継続させ、友の会の班会に積極的に参加し、会員さんと一緒になって、医療改悪を打開するための運動をより一層進めていきたいと思います。

旧沢内村見学から今の医療を考える

11月につばさ薬局が加盟する宮城民医連で働く青年と一緒に、岩手県の旧沢内村(現在の西和賀町)へ行ってきました。みなさんは沢内村というところはご存知でしょうか?沢内村は、岩手県と秋田県の県境にある村で、昔は冬に雪が4メートルも積もったという豪雪地帯です。「なぜ、そんなところに行ったのか?」実は沢内村は、今から45年も昔に乳幼児死亡率ゼロを達成した村として、また乳幼児と老人の医療費を全国で始めて無料化したことで有名な村なのです。今でこそ乳幼児の死亡率ゼロということは、珍しいことではありませんが、当時は東京都でも25%、岩手県では70%近くもの赤ちゃんが、その幼い命を落としていました。そのことを考えると、東北の山奥の小さな村が行ったことは、まさに偉業と言えるかと思います。また医療費の無料化は全国に先駆けて行い、沢内村の医療は全国から注目されました。医療費が無料となることで、病院にかかりやすくなり、早期には治療できることで重症化せずに済むという「予防医療」発祥の地となっているのです。

今、日本の医療は社会保障費の削減を目的とした医療費抑制政策の中で、医師不足や病院経営の困難を抱えています。また、合併による地方再編により地方交付金が減らされ、地方の小さな自治体は財政難に苦しんでいます。公的医療機関といえども、採算が合わなければ、病院の存続ができない、このような厳しい状況の中、各地で病院、病棟が閉鎖され地域医療が崩壊の危機にさらされています。地域から病院がなくなるということは、「命を守る場所」がなくなるという切実な問題です。かつて「生命尊重こそが政治の基本」として積極的に医療費無料化を取り入れた沢内村の行政とくらべ、後期高齢者医療制度導入など今の医療政策のあり方はどうでしょうか?45年前の医療政策に、今の日本の医療は劣ってしまっていると言わざるをえないのではないかと思います。

深澤村長胸像と「いのちの灯」碑前で

学習会のご案内

2月16日(土) 15時〜17時　つばさ薬局長町店

学習会テーマ　『患者に役立つ薬局、薬剤師とは』
ー患者の視点で考える医療コミュニケーションー

毎年、外から講師を招いて実施するもので、大変わかりやすく、勉強になると思います。是非、参加してみて下さい！

-お知らせー

『薬学生の集い』の開催日が**3月15日(土)**に決定しました！中身は、まだナイショですが、後日案内を送ります。今回も参加して良かったと思える企画をご用意していますので、ふるって参加の程、ヨロシクお願します!